

普及活動情勢報告（令和3年6月分）

幡多農業振興センター農業改良普及課

ミョウガで農福連携の取り組み！ ・ ・ ・ ミョウガ出荷調製作業体験講習会 ・ ・ ・



6月3日、宿毛市内の福祉事業所でミョウガの出荷調製体験講習会が開催されました。農業改良普及課は、福祉事業所、ミョウガ農家やJA出荷場と調整して、講習会を設定しました。

講習会では、ミョウガ農家が出荷調製の方法を説明した後、事業所利用者が調製作業を体験しました。事業所からは「連携できるよう前向きに取り組みたい」という意向が示されました。また、農家からは「選別はかなり正確にできていた」という声が聞かれました。

今後は、来夏からの本格的な出荷調整に向け、10月および来年5月に試験的な受注を行うこととなりました。

はじめての田植え体験！ ・ ・ ・ 四万十市具同小学校総合授業 ・ ・ ・



6月7日、四万十市入田の水田14aで具同小学校5年生71名が水稲の田植えを行いました。

農業改良普及課は、市役所・地元集落営農法人・JAと連携して、10年前から総合授業の一環として水稲の栽培や体験の支援を行っています。

田植え体験では、稲の種まきから収穫までについて説明した後、小学生たちが実際に水稲の手植え作業を行いました。

今後も収穫作業(手刈り)等に関わり、食農教育に取り組んでいきます。

豊作を祈って！ ・ ・ ・ 新嘗祭に向けた献穀田の田植式 ・ ・ ・



6月10日、宿毛市平田地区で関係者30名が出席し、新嘗(いなめ)祭に献穀する「ヒノヒカリ」の田植式が執り行われました。新嘗祭は天皇が国民を代表して農作物の恵みに感謝する式典で、毎年全国各地から収穫された新穀が献納されます。今年度は献穀者として岩本氏が選ばれ、八乙女や献穀者などが1.5aの斎田に苗を植え付けました。

今後も農業改良普及課は、市役所・JAと協力し、栽培管理や秋の抜穂式に向けて支援していきます。

今年も高品質の米ナス出荷を

・・・雨よけ米ナス目慣らし会・・・



6月14日、JA西土佐支所集出荷場で、雨よけ米ナス目慣らし会が行われ、生産者12名の他JA検査員や営農指導員及び振興センターなど関係機関が多数参加しました。

振興センターからは環境・安全・安心シートの集計結果について報告し、生産者の取組意識が高い項目と、これから取り組むべき項目がはっきりしたことを指摘しました。米ナスの生産者がGAPに取り組むのは初めてですが、GAPの実践は高品質な農産物生産につながるということが理解された様子でした。

農業改良普及課は、今後は栽培中と栽培後のチェックシート試行を通じて、個々の生産者の農作業の具体的な改善につなげていきます。

高温対策について学ぼう！

・・・環境制御技術アドバイザーによる指導・・・



6月16日、四万十市のキュウリほ場で、生産者及び関係機関の6名を対象に（株）デルフィー日本の麻生氏によるリモート指導が行われました。

ほ場で生育状態を確認し、生育調査やかん水量、天候との関係について今作を振り返り、ハウス内の効果的な高温対策についての講義が行われました。

生産者からは「遮光カーテンを使用する際のかん水管理について知りたい、来作は塗布剤も検討したい」という意見が聞かれました。

農業改良普及課は、環境データの解析をもとに、JAと連携し、環境制御技術による増収に向けた支援をしていきます。